

【様式】 令和4年度 学校マネジメントシート

学校名（三重県立宇治山田商業高等学校）

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		校訓「健康明朗 自律協同 誠実勤勉」のもと、 人生の基礎となる力（「志」と「専門性」）を育む学校
(2)	育みたい 児童生徒像	○自他を尊重するとともに、規範意識を大切にする人間性豊かな生き方を目指す生徒 ○自己実現に向けて主体的・創造的・積極的に挑戦する活力ある姿勢や態度を大切にする生徒 ○探究的な学習、地域や国際交流活動等を通して「企画力」「調整力」「実践力」「突破力」「地域への貢献力」等の能力を備えている生徒
	ありたい 教職員像	○法令・法規を遵守し、信頼ある教育活動を展開する教職員 ○目指す学校像の実現に向け、生徒の多様な力を伸長するため、絶えざる自己改革に努力を惜しまない教職員 ○生徒が減少する南勢地域において本校の魅力の更なる特色化に向け、情報共有と相互支援を行う教職員

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	〈生徒〉 自己実現できる進路指導(就職・進学)。学習、部活動ともに充実した学校生活 〈保護者〉 安心・安全な学校。子どもの進路希望(就職・進学)実現 部活動の充実と、きめ細やかな生徒指導 〈地域〉 地域社会に貢献、活躍できる生徒の育成と本校の魅力のさらなる向上	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
	〈家庭〉 進路状況など学校情報の提供 〈中学校〉 生徒の志望に係わる学校情報の提供 〈地域社会〉 地域創生へ向けた活動や地元での就職の推進	〈家庭〉 協働できる体制の確立 〈中学校〉 体験入学や英語セミナー等を通じた交流の推進 〈地域社会〉 地元事業所からの求人の継続

(3) 前年度の学校関係者評価等		<ul style="list-style-type: none"> ・ コロナ禍において制約のあるなか、様々な対策及び工夫を教職員が行い教育活動を止めることなく実施してきたことで、生徒は例年と同様の学びを得ることができた。 ・ コロナ対策で得られたオンライン研修などの取組を、今後もさらに発展させて実施することは、今後の社会でリーダーとして活躍していく生徒には必要である。
(4) 現状と課題	教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ○ 文武両道の校是のもと、多様な教育活動を定着させるために I C T 機器等を活用した教育活動を積極的に推進し、生徒が充実した高校生活を送れるよう取り組む必要がある。 ○ 文部科学省事業「グローバル型」の成果を生かし、SDG s の視点を持った地域リーダー育成に向けて引き続き地域と連携した教育活動や国際交流活動に継続的に取り組み、持続可能な教育活動を計画的に実施する必要がある。
	学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学級数減の中で3学科の魅力について再確認し、開かれた学校づくりを実現するため、広報活動の充実を図る必要がある。 ○ 地域に根差した「信頼される学校」として、引き続き、教職員がコンプライアンス意識を高め、生徒・保護者等関係者の声に耳を傾けながら、風通しの良い学校に向けて取り組む必要がある。

3 中長期的な重点目標

教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒の自主性、主体性、創造性を育み、積極的に自己を高めていくため、部活動振興をはじめ、文武両道を推進し、人間性豊かで活力に満ちた学校生活の確立に努める。 ○ 地域に開かれた学校づくりをとおし、キャリア教育の更なる充実を図るとともに、就職及び進学への進路実現に向け支援し、地域社会の発展に貢献する人材を輩出する商業高校を目指す。
学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 絶えざる自己変革（「学校力」・「教師力」・「生徒の人間力」の強化）を行うため、全教職員が授業公開を実施する。 ○ 多様な学習成果の評価手法について組織的に研究を深め、授業改善に取り組む。 ○ I C T 教育を推進して効果的な教育活動を実現するとともに、総勤務時間の削減に努める。

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重要取組

(1) 教育活動

項目	取組内容・指標	結果	備考
教育課程	<ul style="list-style-type: none"> ○ 授業時間の確保と授業の質的向上に努め、適正な行事の時間を確保することで生徒・保護者の満足度を高める。 <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各分掌、各学年等の年間計画を総合的に実施しながら、随時改善に努める。 ・ 1 学年から、学習指導要領改訂の趣旨を踏まえた教育課 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業時数を確保しながら学校行事を実施。 ・ 観点別評価の評価規準を 	

	<p>程を実施する。</p> <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒アンケート等による成果と課題の検証 年2回 	<p>作成。</p> <ul style="list-style-type: none"> 実施済み 	※
学習指導	<p>○ 授業内容の充実を図り、生徒の学習意欲や学力の向上、進路実現に努める。</p> <p>○ 各教科の学習到達目標の作成や評価手法の充実・改善を図り、指導と評価の一体化に取り組む。</p> <p>○ 生徒の学習・生活状況の実態を把握するための調査を実施し、生徒理解に生かす。</p> <p>○ オンライン教育や、授業におけるICT機器の活用による効果的な学習指導に努める。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒の授業理解度を把握するため、各教科の「つきたい力」に沿った調査方法を検討し調査を実施 オンライン教育を推進し、「学びの継続」に取り組む 日本商工会議所簿記検定2級、基本情報処理試験に挑戦 英語セミナーを実施し、英語運用能力の向上を図り、英語の上級検定取得に挑戦 個々の生徒の希望と学びの進度に合わせた補習授業を適宜実施し、幅広い学力層に対応 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業公開による授業力向上取組み 全教員1回以上 (各期間中に、他教科教員の授業を1回以上参観し、意見交換を行う。) ICT機器を活用した学習活動の実施 全教員1回以上 「日商簿記検定2級」合格 70名以上 「情報処理国家資格」合格 25名以上 CEFR A2中程度～B1程度の検定取得 30名以上 (「実用英検2級」及び「実用英検準1級」、「TOEIC L&R 730点以上」、「GTEC(アセスメント版含む)840点以上」等) 	<p>・各教科で目標と評価規準・評価方法を明確にしてシラバスに記載。</p> <p>・オンライン授業を積極的に実施。ICTを使用した授業を各教科で実施・共有。</p> <p>・希望者にはオンラインによるライブ授業を実施</p> <p>・2回実施</p> <p>・全教員1回以上実施</p> <p>・36名</p> <p>・応用情報1名 基本情報6名 ITパスポート11名</p> <p>・英検準1級1名</p> <p>・英検2級 13名</p> <p>・GTEC840点以上37名</p>	◎ ◎ ◎
キャリア教育	<p>○ 3年間の系統的なキャリア教育(1学年・高校生活を考える、2学年・高校生活の充実に向けて、3学年・高校生活の完成に向けて)を通じて、職業観・勤労観、主体性、挑戦する心、コミュニケーション力等を育成する。</p> <p>○ 個々の生徒の適性に応じた進路保障に努める。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 定期的に「進路だより」を発行しWEBページで公開する。 年間8回以上の進路講話(1年生2回、2年生3回、3年生3回)を体系的に実施する。 	<p>27号まで発行</p> <p>1年生2回、2年生3回、3年生3回</p>	

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 図書館とも連携し全職員による小論文指導を実施する。 ・ 1年次に企業見学（11月）と地元企業説明会（2月）を実施する。 ・ 2年次にジョブシャドウイング・大学見学（11月）を実施する。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国公立大学または難関私立大学延べ合格者数 20名以上 ・ 民間企業等就職内定率 100% 	<p>204本実施</p> <p>企業見学 11/8実施</p> <p>11/8実施</p> <p>11名(国公立3名 難関私立8名)</p> <p>・就職内定率 100%</p>	※
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ○ 基本的な生活習慣の確立と集団生活をとおして他者を尊重し協調する心や規範意識を醸成する。 ○ 文武両道を推進し、部活動の振興を図る。 ○ 交通安全指導の徹底を図る。 ○ 生徒の自主性を高めるため、生徒会活動や山商祭などの学校行事等を充実する。 <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 5分前行動を促し、授業開始前の着席指導を徹底する。 ・ 全教職員による「身だしなみ指導」「挨拶運動」を充実する。 ・ 交通安全に対する意識を高め、交通ルールの遵守に努めるよう指導する。 ・ 生徒会活動の活性化を図り、学校行事の創意工夫と実態に即した改善を行う。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自転車事故件数 年間 0件 ・ 生徒会による「挨拶運動」を実施 年間 20回以上 ・ 充実・改善に取り組んだ生徒会活動 年間 2回 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 交通安全講話 2回実施 ・ 毎朝の交通指導実施 ・ 生徒会提案内容を山商祭に反映。生徒満足度高 ・ 11件（昨年度1件） ・ 24回 ・ 3回（5月web目安箱、駐輪場の区画改善、7月体育祭について提案、12月校則の見直しについて） 	
安全・安心な学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自他を尊重し、命を大切にする態度を育成するため、あらゆる機会を通じて生命尊重の教育を推進する。 ○ スクールカウンセラーとの連携を図り、相談体制の更なる充実を目指す。 ○ 環境整備の充実を図るため、ゴミの減量・分別と清掃指導の徹底に努める。 ○ 全教職員の熱中症への対応力を高める。 <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校教育活動全体を通じて「命を大切にする教育」を検証し、取組内容を充実する。 ・ 教育相談体制を充実させることで活用しやすい体制をつくるとともに、教員の指導力向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ スクールカウンセラーとは養護教諭を中心とし、連携が円滑に行われている。 ・ 環境美化等の学校環境整備では継続的な活動を実施。今後は長期的な継続性をねらった活動を実施予定。 ・ 熱中症に関しては啓発資料の作成と呼びかけにより、例年に比べて少ない。 ・ 新型コロナウイルス感染症 	

	<ul style="list-style-type: none"> 学校環境デーなど生徒と教員の取組みを通じて、環境美化、節電、ゴミ減量・削減に努める。 新型コロナウイルス感染症予防に努め、生徒自身の健康管理意識を高めるとともに、手洗い、手指・器具消毒などを徹底する。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「命を大切に教育」に係る講演会の実施 年1回 保健講話（熱中症講演会）の実施 年1回 高校生活セルフチェックにおいて「不安や辛さあるいは怒りなどを感じる」生徒の割合 昨年同時期より減 校内でのクラスター発生数 0回 	<p>予防については予防策を講じるも徹底できず、多くの感染者が発生。今後は特に換気の啓発活動を実施予定。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1回実施 ・1回実施 <p>熱中症患者(保健室調べ) 5件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7.1%減少 <ul style="list-style-type: none"> ・校内クラスター類似件数 2件(8月) 	
人権教育	<p>○ 「三重県人権教育基本方針」に基づいた人権教育カリキュラムを充実するとともに、実効あるものとするための総合的・系統的な推進体制の構築に努める。</p> <p>○ 教職員の人権感覚を高め、生徒一人ひとりの人格を尊重した生徒支援に努める。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 入学から卒業まで、3年間を通じた体系的な学習となるよう計画立案する。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 人権教育カリキュラムに基づいた取組を、全学年で各学期1回以上実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各学期実施済 	※
読書指導	<p>○ 教科学習及び特別活動に役立つ資料の充実に努め、利用を促すとともに、自由な読書の機会を保障する。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒・保護者向け及び教職員向けの図書館だよりを発行する。 図書館主催のイベントを充実する。 ビブリオバトルに参加し、生徒の表現活動を推進する コロナ対策を徹底し、生徒が安心して図書館を利用できる環境を提供する。 生徒の貸出履歴等個人情報に係わる情報について管理を徹底し、図書部内で意識の統一を図る。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 図書館の貸出冊数 全体で 15,000 冊以上 教科の授業や特別活動と連携した図書館利用回数 年 100 回以上 	<ul style="list-style-type: none"> 5,744 冊 41 回 	
改善課題			

- ・次年度も引き続き、地域と連携した学習活動を継続していく必要がある。
- ・人権教育のさらなる推進を図るには人権教育の日常化を図る必要がある。

(2) 学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
組織運営	<ul style="list-style-type: none"> ○ 信頼される学校であるために、教職員間の規範意識および服務規律の確立に努める。 ○ 危機管理意識の高揚及び防災教育の推進に努める。 ○ 法令・法規を遵守し、過重労働の削減に努める。 <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校信頼向上委員会を定期的を開催するとともに、コンプライアンス研修等を通じて、学校全体で組織的に学校信頼向上に取組む。 ・ 防災危機管理の観点から「学校メール連絡網」への加入者数の増加を図る。 ・ 「校内ネットワーク」の積極的な活用により、効率的な教職員間の「情報の共有」に努める。 ・ 定時退校日、部活動休養日等を設定して時間外労働を削減する。 ・ 議題説明時間の短縮により、会議時間の効率化を図る。 ・ 機械警備を適切に運用するため、戸締り、窓閉め、消灯などを徹底する。 ・ 公文書管理規程に基づく適切な文書管理を行う。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「学校メール連絡網」加入者割合 100% ・ 年 360 時間を超える時間外労働者数 0 人 ・ 月 45 時間を超える時間外労働者延べ人数 0 人 ・ 1 人当たりの年間休暇取得日数 年 1 日増加 ・ 定時退校日(月 2 回)できた職員の割合 90%以上 ・ 部活動休養日(週 1 回)できた部活の割合 95%以上 ・ 放課後 60 分以内に終了した会議の割合 85%以上 ・ 校舎施錠不備(委託業者施錠)回数 年 3 回以内 ・ 公文書の保存状況確認回数 年 2 回 	<ul style="list-style-type: none"> ・ コンプライアンスミーティング 2 回実施 	◎
情報提供	<ul style="list-style-type: none"> ○ 開かれた学校づくりを実現するため、特色・魅力ある教育の情報発信(広報活動)の充実を図る。 		◎

	<p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 公開授業、公開講座を開催する。 報道機関への資料提供、地域・中学校への学校Webページ等を活用した情報発信に努め、受検生の増加を図る。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 公開授業 年2回以上 学校Webページの充実・更新 年140回以上 新聞記事等への掲載回数 年20回以上 公開授業・公開講座参加者アンケート満足度 85%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 6月・11月実施 178回（内公式インスタグラム更新回数65回） 26回 95.6% 	
改善課題			
<ul style="list-style-type: none"> 働き方改革における総勤務時間の縮減については引き続き、業務量の平準化や部活動等のさらなる工夫や内容の精選が必要である。 教員数減にともなう校務分掌や部活動の在り方を検討していく必要がある。 			

5 学校関係者評価

<p>明らかになった改善課題と次への取組方向</p>	<ul style="list-style-type: none"> 授業内容や部活動、進路実績等において高い評価を得ることができている。 働き方改革における総勤務時間の縮減について教員の業務でないものを整理し、地域の協力を得ながら精選していく必要がある。 部活動については教員の数を鑑みて統廃合を段階的に進めていく必要がある。 人権教育について評価できる。さらなる推進を図るうえで、普段の授業から教員が適切な人権感覚を有し、学び方や教材の工夫によって人権教育の日常化をさせていく必要がある。
----------------------------	--

6 次年度に向けた改善策

<p>教育活動についての改善策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ICTの効果的な活用を推進しながら、生徒自身がその活用を通して個別最適な学習環境を通じた学習効果が得られるように取り組みたい。 商業の学びをビジネスに繋げていけるよう基礎的科目の学びを深め、課題解決・探究型の授業展開を持続可能な形で発展していきたい。
<p>学校運営についての改善策</p>	<ul style="list-style-type: none"> 教職員のコンプライアンス意識の維持向上のため、持続的な取組みを継続する。 引き続き校務運営のスリム化、体系化に努め、業務引き継ぎ等をスムーズに実施できる体制づくりに取り組む。 本校の強みや特徴、商業の学びを中学生・保護者等に積極的に伝えられるよう報道機関への資料提供をはじめ、公式HP、インスタグラム等の活用を進めるとともに説明会等を通じた直接伝達できる機会を増やしていきたい。 3年間の学びの集大成でもある「学習成果発表会」等の公開にも取り組みたい。